第１回今後の県立美術館運営検討委員会 議事概要

１　開催概要

(1)　日　時：令和８年９月 16 日（水）13：30～15：30
(2)　会　場：新潟県立近代美術館会議室
(3)　出席者：委員５名中、５名出席

２　開会

３　新潟県観光文化スポーツ部文化課長挨拶

４　委員紹介、挨拶

５　議事概要

(1)　事務局説明

配付資料により説明を行った。

(2)　主な委員意見

事務局説明後の意見交換における主な委員意見は以下のとおり。

ア　冬季の美術館運営について

○　１月から３月は、雪の有無にかかわらず全国的に美術館に人が入らない時期であり、その時期にどのように賑わいを創出するかが課題。展覧会に限らず、地域と連携したイベントなども含め、何か美術館自体に活気を生む工夫を行わないと難しい。

イ　マスメディアとの共催による企画展について

○　マスメディアとの損益分担をきちんと行うべき。改善を考えていかなければならない。
○　中央のマスメディアとの共催は全国的な問題で、特に新聞社はリスクを取らなくなっている。共催展の場合、収益だけを追求すると地方の美術館は太刀打ちできない状況になりつつあり、展覧会そのものをどう底上げできるのかという議論も必要。
○　学芸員は、新聞社やテレビ局とのやり取りなどがあり、本来業務とは違うベクトルを発揮しながら美術館運営を行っており大変だと思う。

ウ　美術館の入館者数と収支について

○　入館者数や収支は、屋内駐車場や融雪装置などのインフラや、美術館の場所も含めての話であり、それを求められるとなかなか難しい。
○　新潟県立美術館は、職員がそんなに多くない中で、入館者数、収支がかなりよい方だと思う。他県と並べて比べてみるとよいと思う。

○　教育普及活動は、すごく地味な活動であり、すぐに入館者が何万人と増えるものではない。手間もお金もかかる。収支を気にしていてはやってられない。何年か後に少し広がり、美術館を楽しんでもらえるようになるための投資としてやっていけるかどうかであり、何を求めるのかというところだと思う。
○　現在の赤字収支に加え、今後の改修の投資も含めると、更に支出が増えることになる。県財政は非常に厳しいものであるため、文化振興とはいえ、単に赤字の増加を止めるということではなく、改善させる必要がある。講座室やギャラリーなどの低利用スペースの活用など、観覧料以外の収益確保なども含め、どのように収支改善を行うかを検討してほしい。
○　財政セクションとの協議もあると思うが、まずは担当課である文化課が収支改善の方策を検討してほしい。
○　入館者数も大事だが、文化は入館者数や収支では測れない。数字になってる部分だけではなく、定性的なエピソードも含めて評価して前に進めてほしい。
○　美術館は、社会課題にどう役立てるかというところこそが大きな役割であり、お金と人数に換算できない部分がある一方で、公立美術館には収支に対し非常に厳しい目が向けられるというのもあり、そのバランスをどう取るかが大事。支出を減らすだけでなく、ふるさと納税の活用など、収入を多元化する方法も考えられる。基金の仕組みがあると、寄附金の運用が行いやすい。

エ　広報について

○　大都市圏をはじめ、広報専門の職員を置き効果的に発信している美術館が増えてきている。展覧会の職員が付随業務として広報を行うのは昔ながらの方法であり、問題提起したい。

オ　近代美術館の改修について

○　今回改修しても、一定期間が経てばまた改修が必要になるため、将来的に美術館を同じ場所に置き続けるのか、あるいは例えば他の自治体のように移転して図書館等との複合施設とするということも考えられる。民間活力の導入スキームに影響するため、どの程度の改修スパンかを考える必要がある。
○　改修後に屋外空間も有効活用してバリューアップを図っていくためには、植栽管理も必要になり、動線計画を立ててどれくらいのコスト増になるのか考えておいたほうがよい。

カ　ボランティアについて

○　お金をかけずに新しいことを行うという視点で、将来的に教育普及にボランティアを活用することが考えられる。しかし、それも大変なことである。
○　ボランティアは使うものではない。一緒に作り上げていくという認識を持ってほしい。

キ　他美術館との連携について

○　他県では県と市の美術館が連携している例があり、新潟県でも市の美術館など他の美術館と有機的な連携ができると、もっといいアイディアが生まれると思う。

ク　その他

○　様々な課題に対し、できない理由を考えるのではなく、どうやったらできるかを一緒に考えていきたい。

６　閉会